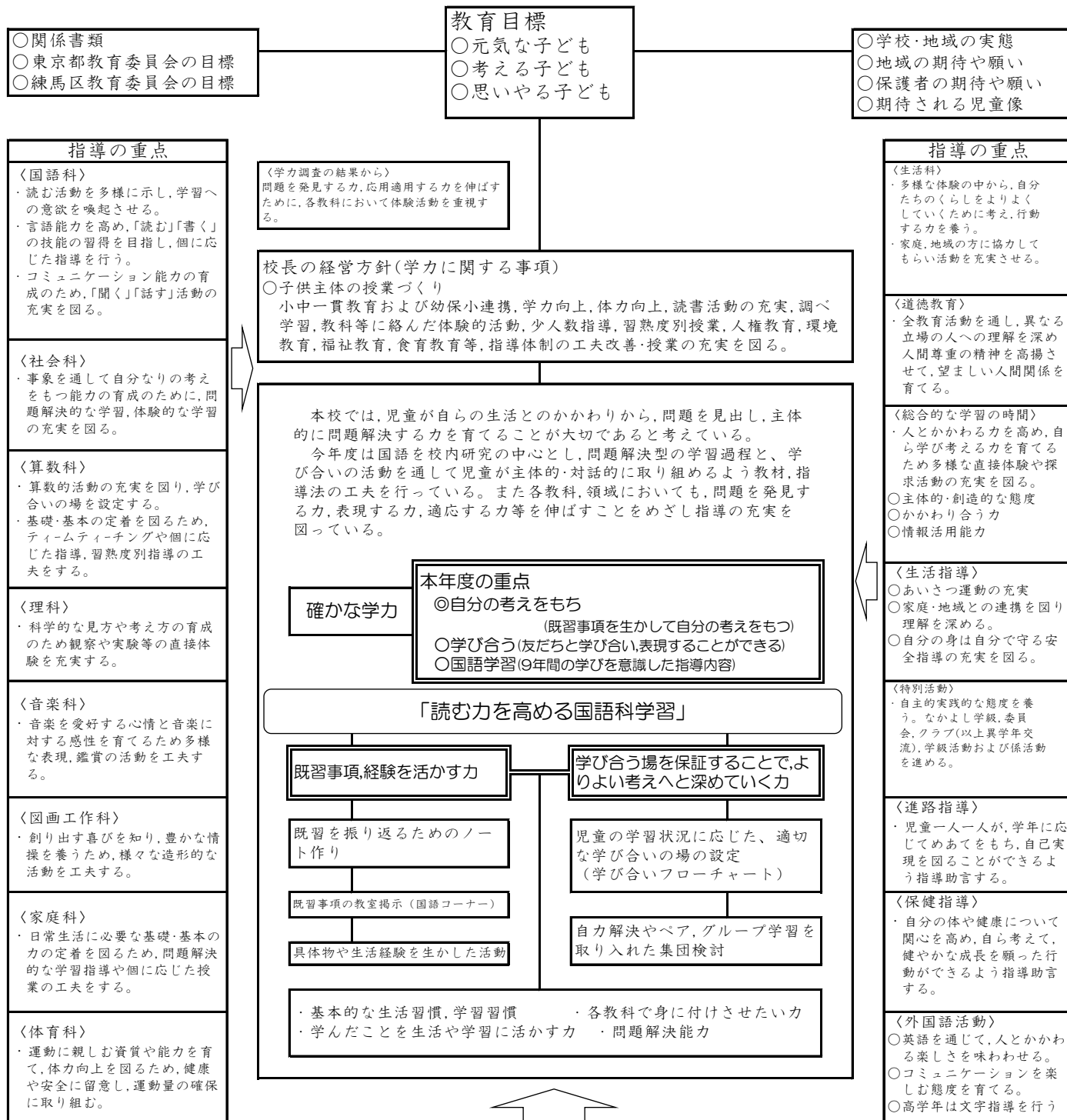




田柄第二小学校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
・体験的、問題解決的な学習を重視する。 ・児童の実態に応じた学習指導を行う。(習熟度別授業の工夫) ・基礎的・基本的な知識や技能を体系的に身に付けさせる。 ・読書活動の充実のため、毎週水曜日始業前に15分間の読書タイムを設ける。 ・学校図書館支援員の協力を得ての授業や、図書ボランティアによる読み聞かせを行う。	・習熟度別指導を工夫する。 ・夏季休業中に学力補充教室を行う。 ・年間2回の読書週間を実施する。 ・土曜授業や弾力的な授業時間の運用を計画的に行い授業時数の確保をする。	・「教育課題研究指定校」として、国語を中心に教員の授業力を高め、学力の向上を図る。 ・田柄中、田柄小との小中一貫教育実践校として、研究の充実を図る。 ・年間指導計画の見直しを実施する。 ・長期休業を中心に、職員研修を充実させる。(パソコン研修、特別支援教育研修、OJT等の推進)	・1時間の授業前と後を振り返らせ、自己評価させる。 ・児童の意識調査を数回行い、学ぶ意欲の変容を確認して、年間指導計画に反映させる。 ・自己点検シートや授業観察シートを用いて授業の改善を図る。	・学校公開日、授業参観日を設定し、アンケートを行い、学校関係者評価の参考とする。 ・保護者に向けて12月に総合的なアンケートを行い、教育活動の改善に生かす。 ・道徳授業地区公開講座を実施する。 ・地域子ども会を組織したり、地域農家と交流をしたりする。 ・学校地域連携事業を進め、地域人材を活用する。(地域未来塾)	・小小、小中の交流を通して児童、生徒指導についての情報交換をする。 ・小学校、中学校の指導のよさと課題を認め、互いのよさをそれぞれの指導に生かす。 ・課題改善カリキュラム立案をし、9年間の学びの連続性を意識した授業を実践する。